

# リーディングDXスクール事業【実践事例】

岡山市立岡山中央小学校

## 【取組内容①】録画を活用した「伝え方」を試行錯誤する活動

### 小学校第1学年 国語

【单元名】すきな きょうかをつたえよう

【使用したアプリ】・Google Classroom ・Jamboard  
・カメラ機能(写真・動画)

【活用のポイント】



「視覚化」(見る)



「保存」(残す)



「共有」(一緒に)



「試行錯誤」(何度でも)



「効率化」(早く)

#### 単元で目指す子どもの姿

- ・相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考慮することができる。
- ・伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。

#### 単元前の子どもの姿

- ・、話す内容のまとまりを意識して事柄の順序を決めたり、話したりすることはまだ不十分である。
- ・ペアや少人数では相手に聞こえるように話せても、全体の前では声が出せなくなる児童が多い。全体に話ができる児童も、伝えたいことが分かりやすくなるように、声の大きさや速さを工夫できている児童はほとんどいない。

#### ICTの効果的な活用

- ・導入で、各教科を想起させる写真や動画の提示。
- ・デジタルと紙のワークシートを選択。
- ・自分の話す様子を録画して見返す。
- ・Classroomの質問機能で振り返り。

### 【单元計画】

次	時	主な学習活動
一	1	様々な教科の学習活動を想起し、学習計画を立てる。
二	1	ペアで好きな教科について対話し、みんなの前で話す教科とその理由を考えてメモに書く。
	2	話す順序を考えて、その順番にした理由をメモに書く。
三	1(本時)	まとまりを表す言葉を使って、伝わりやすい声の大きさや速さで話す練習をする。
	2	練習を生かして、みんなの前で話したり、友達の話の聞いたりする。
	3	これまでに撮りためた自分の動画を見返したり、やりとりを思い出して、できるようになったことや友達の良かったところを共有したりして、単元の学習を振り返る。

### 【授業の実際】

導入

・声の大きさや速さが不十分な例を教師が演示することで、相手に伝わりやすい話し方を考えることができるようにする。

展開

・「お話広場」を設けて友達と聞き合って助言したり、端末で自分の話している様子を録画して見返したりすることで、自分がうまく話すことができているか確かめることができるようにする。

まとめ

・クラスルームの質問機能で本時の学習の振り返りを記述し、次時への意欲をもつことができるようにする。



「録画を見返している児童」

### 【成果と課題】

- 自分の話す様子を録画し、見返すことで、個に合った練習が可能になり、「伝え方」を試行錯誤することにつながった。
- 声の大きさや速さなど工夫するとともに、自信をもって他の児童に話すことができた。
- 「お話広場」を設けたことで、録画した内容をもとに個人で試行錯誤するだけでなく、友達と聞き合う機会となり、実体のある相手を意識した活動を維持することができた。
- 「お話広場」では、実際にやりとりすることを目的としていることを想定していたが、録画した内容を交流する子どもも見られた。